

紙版 ハコブネ×ブックス 50枚目記念号

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。

紙版「ハコブネ×ブックス」

50 枚目記念号

2024 年 3 月 15 日発行

●発行人 きむらともお



旧 Twitter
連携して
います。

@tomoostretch

バックナンバー
はこちらから
ご覧ください。



子どもたちは**諦めない勇氣**を持ち、**創意や工夫**を重ねて危機を切り抜けていきます。窮地にあっても**誇り高く、良心を失わず、考えを深めながら**成長していきます。児童文学のマスターピースから奇想の物語まで、サブイバル物語の魅力を存分に味わえる堂々のラインナップで紙版ハコブネ×ブックス、五十枚目の記念号をお届けします。

特集

生きのびろ！



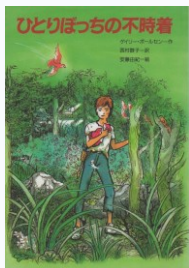
特集

生きのびろ！



スイスのロビンソン
ウィース作
宇多五郎訳
岩波書店 1950 年

どんなことがあろうとも**生きのびて**命を繋ぎなければなりません。十九世紀初頭に書かれた『**スイスのロビンソン**』は、**四人の子どもたちが両親とともに無人島に漂着して、過酷な環境を乗り越えて生き抜いていく物語**であり、後の児童文学作品に多くの影響を与えました。日本でも『**ふしぎな島のフローネ**』（一九八一年）としてアニメ化されたロビンソン一家の物語です。ここから始まって、**漂流や無人島への漂着、飛行機が不時着する**など、子どもたちが**未開の地にとり残され、危機を迎える**数多くの物語の系譜は続いています。



ひとりぼっちの不時着

Hatchet.

作者 ゲイリー・ポールセン
翻訳者 西村醇子
出版社 くもん出版
発行 1994 年 7 月
ISBN 978-4875768814

review



小型飛行機に搭乗中に**操縦士が心臓発作で急死する**という危機的状況に見舞われ、見よう見まねで操縦桿を握ったのは唯一の乗客であった十三歳の少年、ブライアンです。カナダ北部のうっそうとした**森林地帯の湖に不時着**できたのは幸運でしたが、迷走中に大きく飛行ルートを外れてしまったために、ここからどうやって救助してもらえるのか途方に暮れることになります。ブライアンの持ちものは一本の手斧だけ。湖の水を飲めばお腹をこわし、魚はとれず、火を起こすことにも苦戦します。それでもブライアンはここで**生き抜く覚悟**を決めます。都会育ちでサブイバル知識のない彼は、ただ精神を研ぎ澄まし、**生きるための試行錯誤**を続けます。両親の離婚に心を塞いでいた少年は、この自然と闘いの中で考えを深め、窮地を生きのびることで、新たな自分に会っていきます。



少女と少年と海の物語

GIRL.B.OY.SEA.

作者 クリス・ウィック
翻訳者 杉田七重
出版社 東京創元社
発行 2021 年 5 月
ISBN 978-4488011079

review



青少年セーリングコンテストへの出場を目指して航海中だった大型ヨットが転覆して、十五歳のイギリスの少年ビルは沖合で海へと投げ出されます。救命ボートに乗れたものの、仲間たちとはぐれて、たった一人で**大西洋をさまようビル**。僅かな水と食料で渴きと飢えをしのぎながら、救援を持つビルが三日目に遭遇したのは、プラスチックの樽に乗って漂う同い年ぐらいの少女でした。モロッコ出身のベルベル人の少女アーヤもまた、別の難破した船から逃れたと言います。海を漂いながら多くの話をする**育った世界が違う二人**。シエラレオネを知らないというビルに、アーヤが話して聞かせる物語は、彼女の**複雑な事情**が込められていました。無人島に漂着した二人は、故郷に戻るために再び大海へと挑んでいきます。**物語の意味とは何か**を考えさせる新たな名作物語の誕生です。



青いイルカの島

Island of the blue dolphins.

作者 スコット・オデル
翻訳者 藤原英司
出版社 理論社
発行 2004 年 7 月
ISBN 978-4652005248
※1996 年の再刊

review



十九世紀初頭。アメリカ西海岸にあるネイティブたちが「**青いイルカの島**」と呼ぶ島に、酋長の娘、十二歳のカラナは暮らしていました。部族間の抗争から、島民たちは島を出て東の国に移住することになりましたが、その船に乗り損ねて、カラナは弟のラーモと二人でこの島に**とり残されます**。原始的な生活に慣れている二人は、なんとかこの窮地を乗り越えて迎えるの船を待ちますが、人のいなくなった島では、かつて飼った犬たちが野犬化して猛威をふるい、ラーモも襲われ命を落とすことになりました。残されたカラナは島で部族の女性の仕事と化されていなかった狩猟を行い、武器や道具を作り、動物たちを手なづけて自給自足で生き抜いていきます。十八年後、白人たちに発見されるまで、この島でたった一人の人間として生きたラーモナの**勇壮な生命力と生命力**に感嘆してしまいます。



世界のはての少年

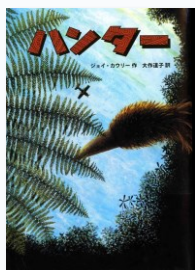
WHERE THE WORLD ENDS.

作者 ジェラルディン・マコックラン
翻訳者 杉田七重
出版社 東京創元社
発行 2019 年 9 月

review



十八世紀初頭。英国北部、セント・ギルダ諸島に住む村人たちは、船に乗り、沖合にある島状の巨岩に渡って、そこに滞在しながら島の狩猟を行なっていました。この遠征に参加した三人の大人と九人の少年たちは、無事、収穫を果たしたものの、三週間が経過しても自分たちが暮らす島からの**迎える船が来ない**のです。連絡手段などない時代です。この巨岩にとりのこされたまま不自由な生活を続けながら、彼らに芽生えたのは、**外の世界はすでに滅んでしまったのではない**、という疑心です。身勝手なふるまいで大人たちに子どもたちは翻弄されながらも、思慮深い少年クイリアムは、仲間たちが**生きる気概を失わないように**工夫を凝らしていきます。物語の終わりに明らかになる、島から迎えがなかった事情には驚かされます。史実を基にした驚異の物語です。



ハンター

Hunter.

作者 ジョイ・カウリー
翻訳者 大作道子
出版社 偕成社
発行 2010年6月
ISBN 978-4037267803

review



嵐に巻き込まれてセスナ機が墜落してパイロットは絶命。姉のジョーダンとは、二人の弟たちとともに生き残ったものの、一人はひどい怪我を負い、通信手段も食糧もない過酷な状況に陥っていました。ニュージョーランドの三月月の湾で、ジョーダンは生きのびる術を考えていきますが、**自然生活のノウハウ**などありません。ところがジョーダンには何か、魚のとり方や薬草の使い方などのアイデアが頭に浮ぶのです。それは二〇〇五年の世界で奮闘するジョーダンの頭に、一八〇五年の世界からマオリ族の少年、ハンターが**サバイルの手**を教えるものでした。逃亡奴隷であるハンターもまた二百年前の同じ場所で窮地に陥りながら、**頭に浮かぶ少女を救いたい**と奮闘していたのです。マオリ族の血を引くジョーダンとハンター。少女と少年が時間を超えて危機を乗り越えていくロマン溢れる物語です。



ビーバー族のしるし

The sign of the beaver.

作者 エリザベス・ジョージ・スピア
翻訳者 こだまともこ
出版社 あすなろ書房
発行 2009年2月
ISBN 978-4751522110

review



十八世紀中葉。アメリカ北東のメイン州に入植しようとする家族がいました。**まだ白人が誰も住んでいない土地を開拓しよう**という挑戦です。十二歳の少年、マットは家族に先んじて、父親と二人でこの土地に入り、丸太小屋を建てました。母親と妹を迎えに行くために父親が不在となる六週間を、**マットは一人でここを守り暮らす**ことになります。ところが、行きずりの男に父親から託されたライフル銃を奪われ、食糧庫も熊に荒らされてしまい、**食べるものもないまま窮地に陥ります**。なんとか狩猟を試みるものの上手くないかず、蜂蜜を取ろうとして蜂に刺され意識を失っていたところをネイティブの老人に助けられます。そこでマットは食糧を供給してもらう代わりに、ある取引を持ちかけられます。それは**ネイティブの少年に文字を教える**ことだったのです。二人の少年のぶつかり合いが楽しい物語です。



秘密の島のニム

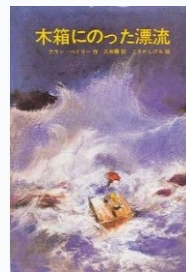
Nim's island.

作者 ウェンディー・オル
翻訳者 田中亚希子
出版社 あすなろ書房
発行 2008年7月
ISBN 978-4751524725

review



海洋生物の研究者の父親と二人で**南の小さな無人島**に暮らしている女の子、ニム。父親は、時々、船に乗って調査に出かけるため、何日間かニムはひとりぼっちになることもあります。それでも**ソーラー発電の仕組みやパラボラアンテナ**もあるの、携帯電話やメールで父親と連絡をとることができます。今回、ブラントン探検に父親が出かけている間に、ニムは父親にメールで質問を送ってきた冒険物語作家のアレックス・ローバーとやりとりをすることになります。アレックスのファンはニムは、頼まれた実験を喜んで行いますが、そのことでケガを負ってしまいます。父親は帰ってこないまま連絡も取れなくなり不安を覚えるニム。**無人島に女の子が一人でいること**を知り驚いたアレックス。インドア派の彼女も意を決してニムを救おうと行動を開始しますが、島には嵐が直撃しようとしていたのです。



木箱にのった漂流

ADRIFT.

作者 アラン・ベイリー
翻訳者 久米綴
出版社 文研出版
発行 1986年9月
ISBN 978-4580804296

review



夏の休暇に家族と一緒にシドニー北の海辺の町に遊びにきていた九歳の少年、フリン。浜辺で妹と一緒に浅瀬に浮かぶ大きな木箱に乗って遊んでいたところ、次第に**木箱が海に流されていく**ことに気がつき、泳いで戻ろうにも**猫が一緒**となるともういけません。やがて沖に出てしまえば岸はぼんやりとしか見えなくなり、星が見え始め、夜になり、朝を迎えると、そこは陸地が一切見えない大海原の真只中でした。お腹をすかせる妹をフリンは励まし続けながら、なんとか希望をつなぐとします。陸地を見つけた二日目の夜。フリンは風が変わり、嵐がくることを予見します。絶体絶命の危機が訪れるたび、フリンは心の中で、**パパだったらこんな時どうするか**と問ひかけます。家族や友だちとの関係にわだかまりを覚えていた少年は、この危機を乗り越える中で大きく成長していきます。



地下鉄少年スレイク

121日の小さな冒険

Slake's limbo.

作者 フィリス・ホルマン
翻訳者 遠藤育枝
出版社 原生林
発行 1989年1月

review



両親がおらず、親戚の家ではやっかいものとして台所に寝かされ、虐待されながら育った十三歳の少年、スレイク。学校でも街でもいじめられている彼にとって、ここニューヨークの地下鉄網は、**いざという時に逃げこむための避難所**でした。学校で手酷くいじめられた日、地下に逃げこんだスレイクは、コロンバスサークルの駅の改札をくぐり抜け、ほんの偶然から、地下鉄のトンネルの中で、地上に建つホテルの地下部分になんからの手違いで**残されていたデッドスペース**を見つけ出します。トンネルの壁が崩れて空いた隙間から入る「はざま」の小部屋を見つけたスレイクは、ここに住むことを決めます。**誰も知らないアーバンな孤島に住む少年**は、どうやってここでサバイバルしたのか。人とコミュニケーションでも多少の社会的獲得していく奇妙な成長物語です。



パイの物語

Life of Pi.

作者 ヤン・マーテル
翻訳者 唐沢則幸
出版社 竹書房
発行 2004年1月
ISBN 978-4812415337

review



動物園経営者の家族と動物たちを乗せたインドからカナダに向かう貨物船が沈没したのは、出発から四日目の太平洋上のことでした。経営者の息子である十六歳の少年、パイは、救命ボートに乗ることができましたが、他に同乗できた人間はおらず、**檻から放たれた動物たち**が一緒だったのです。漂流するボートの上で繰り広げられる**野生の弱肉強食の世界**。パイの目の前でシマウマとオラウータンはハイエナに殺され、そのハイエナを一蹴したのは、大型のベンガル虎、リチャード・パークーです。幸い八メートル近い大きな救命ボートには、パイ一人なら百日分の飲料水と食糧が備蓄されていました。しかし、虎の食糧はなく、**自分が食糧にされないために**パイは虎を調教することを試みます。パイがメキシコに漂着するまでの二百日を越える闘い。それは、**幻想と現実**が入り混じる不思議に満ちた物語です。